

2022年度 第3四半期

決算資料

2023年2月9日

株式会社 TBS ホールディングス

2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 財務戦略局 IR部

Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

2022年度 第3四半期決算

- ▶ 連結全体では増収減益。
- ▶ メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビのタイム収入が減収となったものの、配信広告収入や事業部門収入が伸長したことで増収。
一方で、番組制作費の増加や事業部門の収入増に伴う原価増などにより減益。
- ▶ ライフスタイル事業では、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。
- ▶ 不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。

2022年度 業績見通し

- ▶ 第3四半期での業績予想の修正はありません。

第3四半期 連結損益計算書

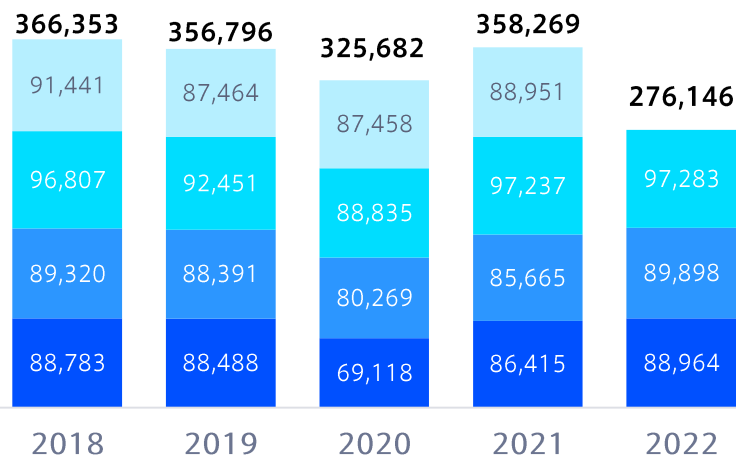
メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビのタイム収入が減収となったものの、配信広告収入や事業部門収入が伸長したことで増収。一方で、番組制作費の増加や事業部門の収入増に伴う原価増などにより減益。ライフスタイル事業では、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。連結全体ではメディア・コンテンツ事業の影響が大きく、増収減益。

(単位：百万円)

連 結	2021年度 3Q(4-12月)	2022年度 3Q(4-12月)	前年差	増減率
売 上 高	269,318	276,146	+6,828	+2.5%
営 業 利 益	23,198	20,194	△3,003	△12.9%
経 常 利 益	33,385	34,101	+715	+2.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21,367	21,166	△201	△0.9%

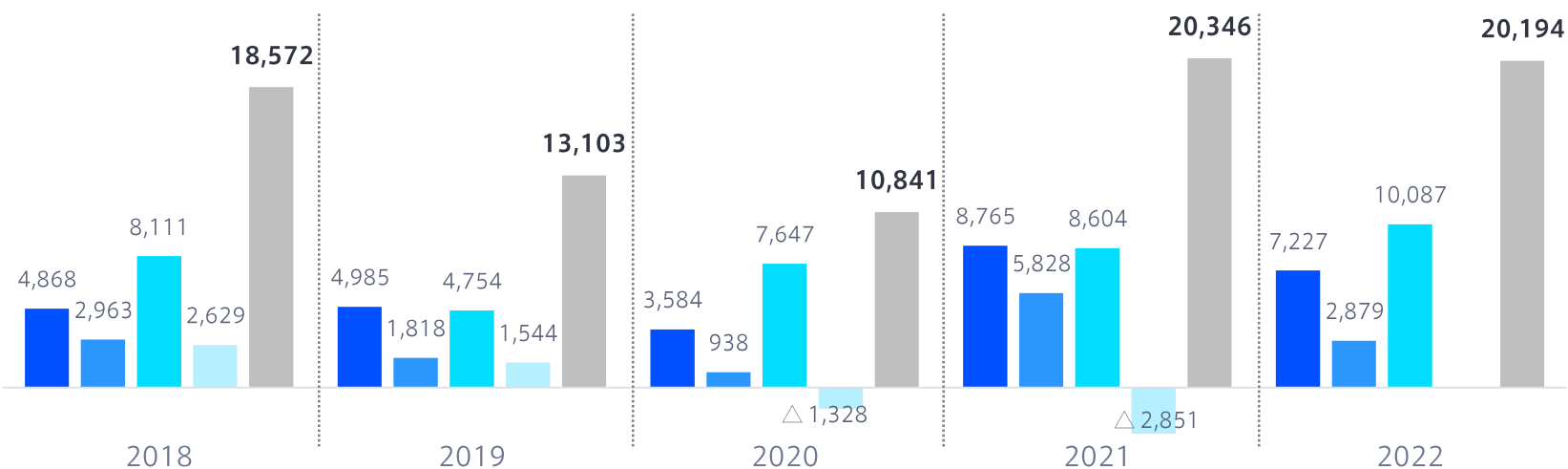
売上高

■1Q ■2Q ■3Q ■4Q



営業利益

■1Q ■2Q ■3Q ■4Q ■合計



(単位：百万円)

	外部売上				営業利益			
	2021年度 3Q (4-12月)	2022年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率	2021年度 3Q (4-12月)	2022年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	211,121	213,507	+2,385	+1.1%	14,365	11,588	△2,777	△19.3%
ライフスタイル	46,387	50,279	+3,891	+8.4%	2,994	3,290	+295	+9.9%
不動産・その他	11,809	12,360	+550	+4.7%	5,837	5,307	△529	△9.1%
調整額	—	—	—	—	0	8	+7	—
連結	269,318	276,146	+6,828	+2.5%	23,198	20,194	△3,003	△12.9%

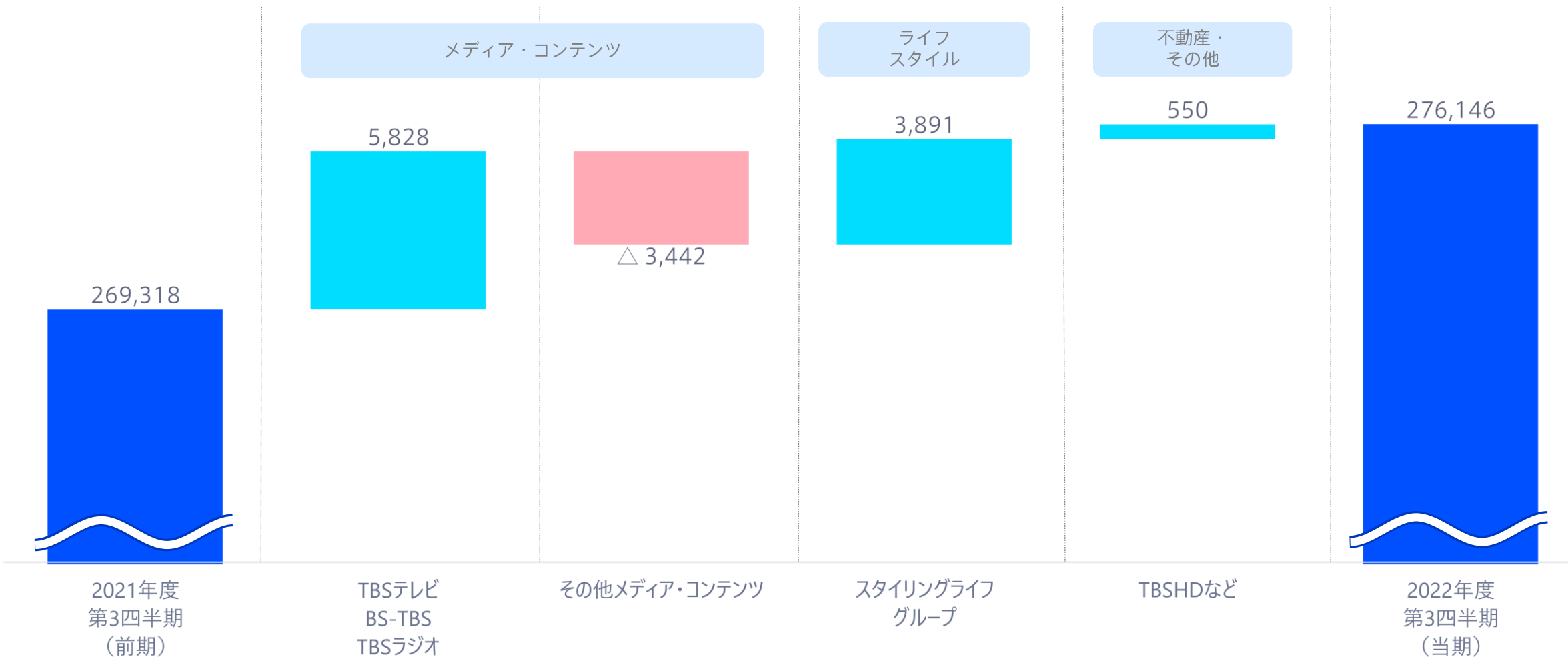
増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TBSテレビ (+5,066) BS-TBS (+902) TBSグロウディア (△1,011) TCエンタテインメント (△825) マンガボックス (△465)	TBSグロウディア (△540) TBSスパークル (△465) TBSラジオ (△228)
ライフスタイル	スタイリングライフグループ (+3,891)	スタイリングライフグループ (+295)
不動産・その他	TBS HD (+636) TBSヘクサ (△67)	TBS HD (+106) TBSテレビ (△167) 赤坂熱供給 (△157)

連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

▶ メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビのタイム収入が減収したものの、配信広告収入や事業部門収入が伸長したことで増収。ライフスタイル事業も自粛要請解除による人流回復などで増収。不動産・その他事業も、賃料収入の回復により増収。連結全体では増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)

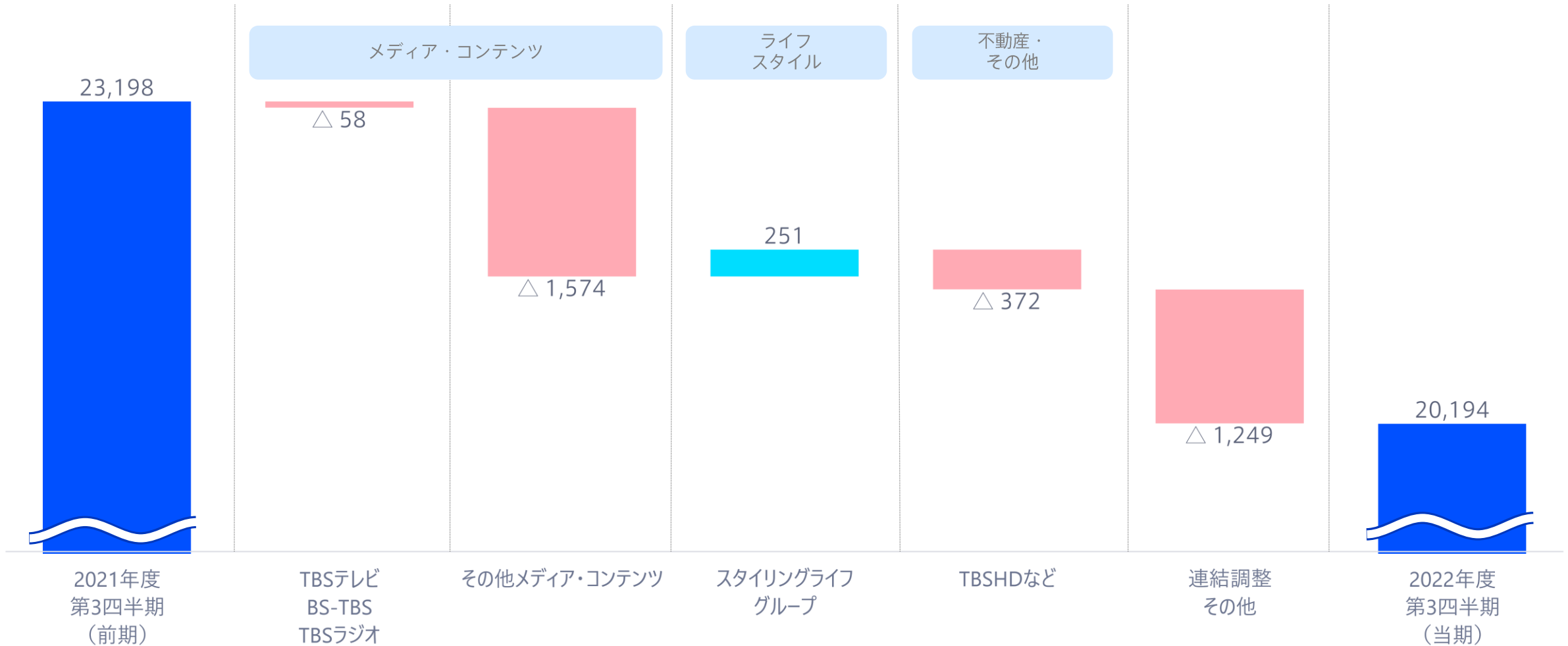


連結セグメント別 営業利益の増減要因

▶ メディア・コンテンツ事業は、番組制作費の増加や事業部門の収入増に伴う原価増などにより減益。
 ライフスタイル事業は、増収に伴う増益。連結全体では減益。不動産・その他事業は、水道光熱費の増加より減益。連結全体では減益。

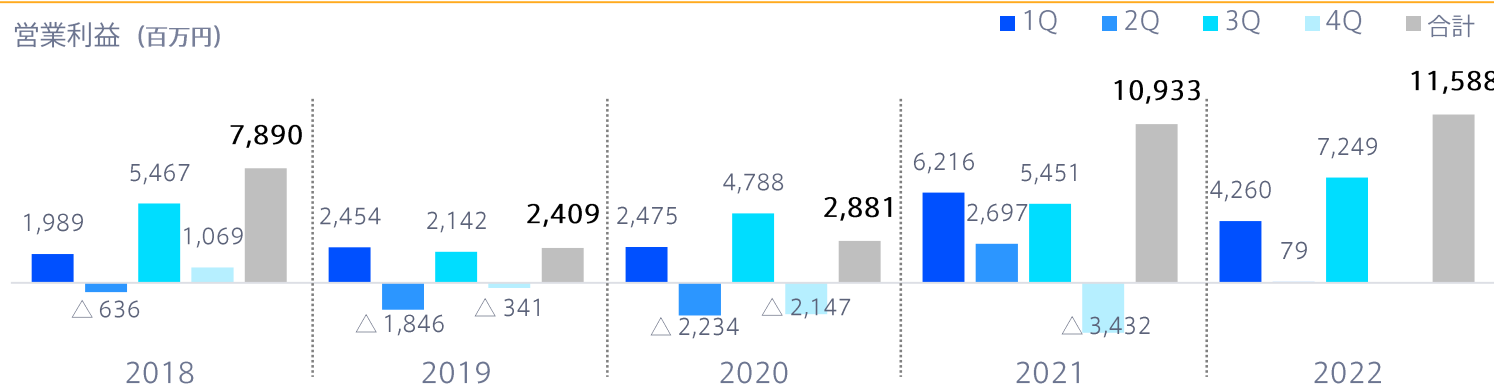
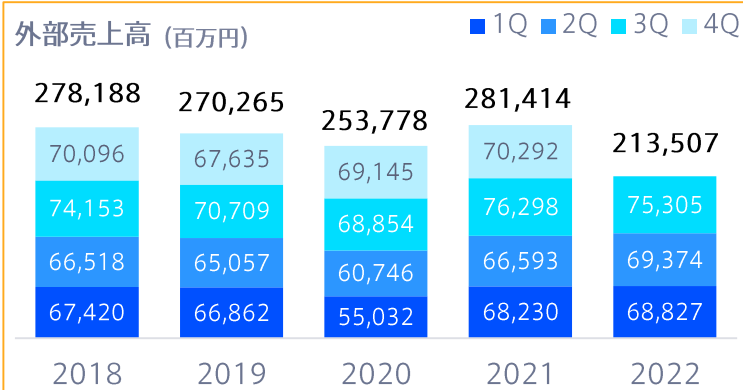
■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)

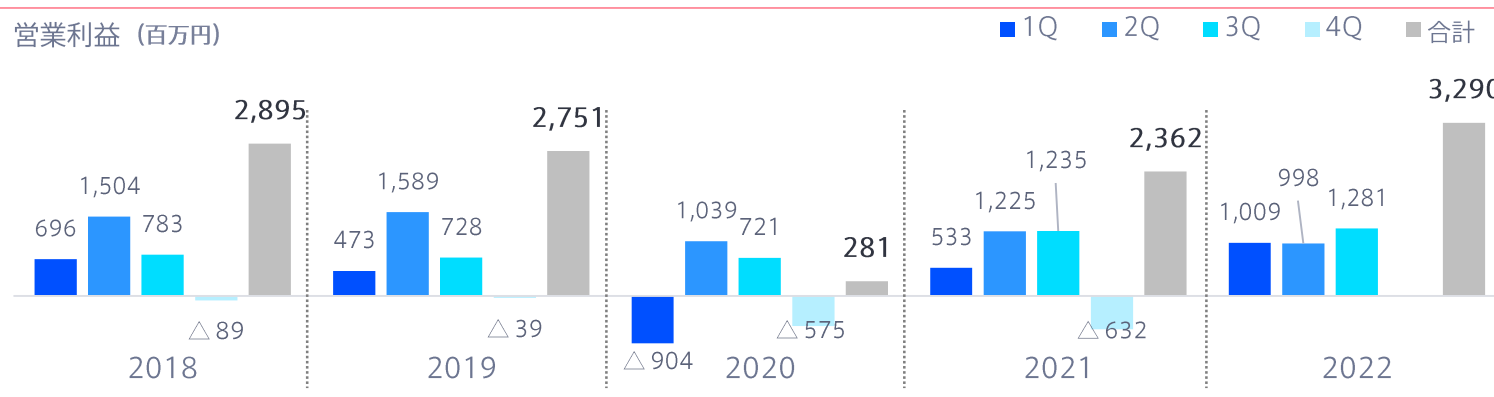
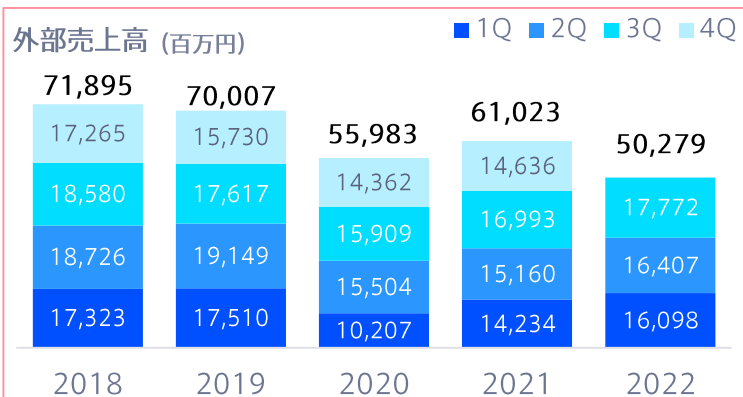


連結セグメント別 経年推移

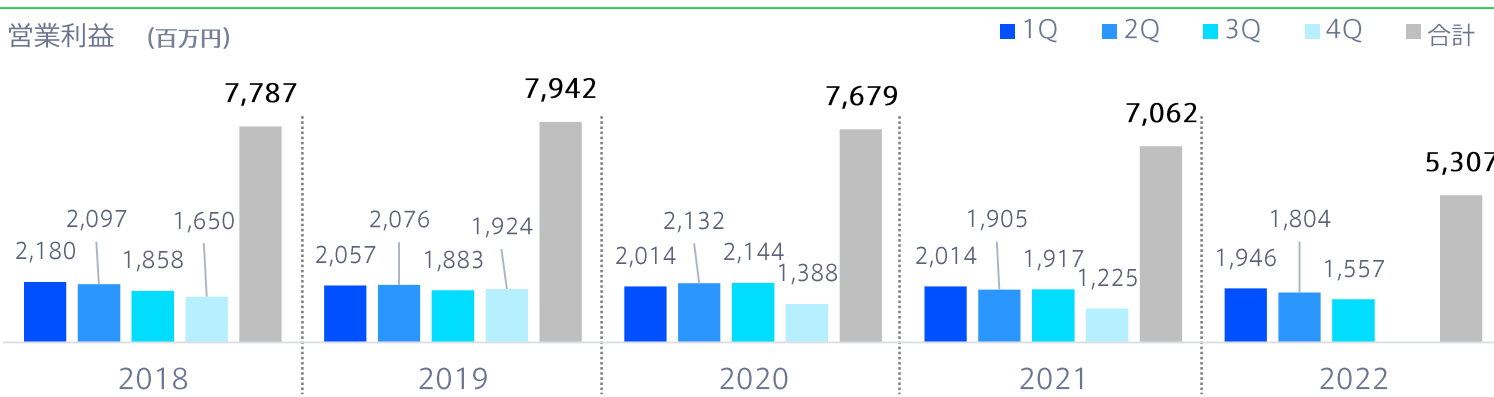
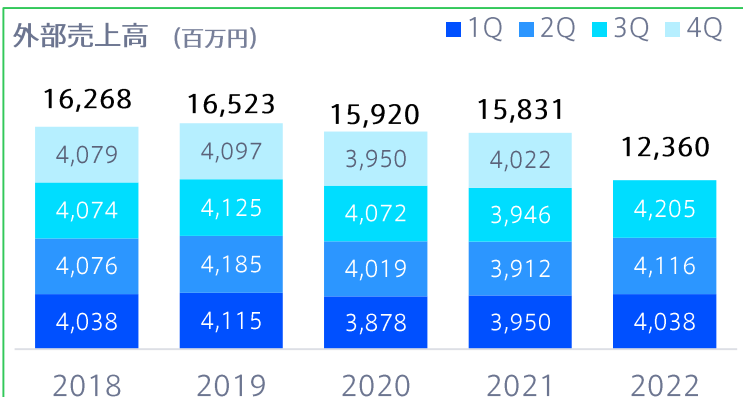
メディア コンテンツ



ライフ スタイル



不動産 その他



単位：百万円

“種まき”施策を
順調に実施

2022/12末現在
約**660億円**

中期経営計画
(2021~2023年度)
成長投資予定額
1,400億円以上

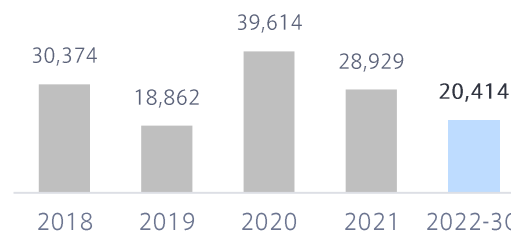
2022年度
(3Qまで)
約**160億円**

2021年度
約**500億円**

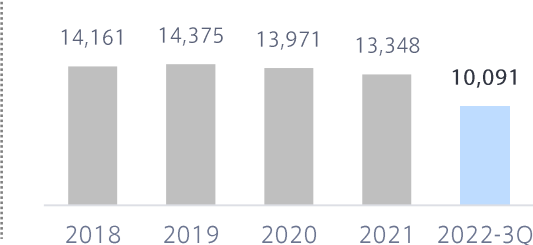
- 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資
- K-BALLETへの出資
- The Chain Museumへの出資
- Studio TooNの設立
- VOXXの設立
- Amazing Sports Lab Japanへの追加出資 など

連 結	2022年度 3Q(4-12月)	前年差
設備投資	20,414	+13,196
減価償却費	10,091	+205

連結設備投資

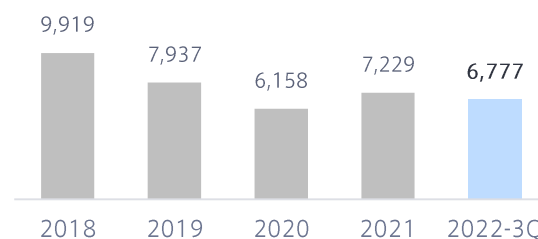


連結減価償却費

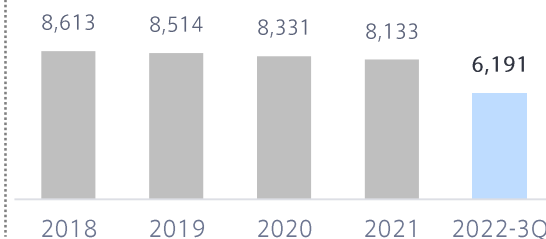


TBSテレビ	2022年度 3Q(4-12月)	前年差
設備投資	6,777	+2,995
減価償却費	6,191	+178

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



テレビ部門では、前年の「東京オリンピック・パラリンピック」の反動でタイム収入が減収したものの、5局シェア拡大によるスポット収入の増加に加え、配信広告収入が好調に推移。事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したほか、ドラマ「君の花になる」の連動イベントにより、大幅増収。一方で、番組制作費の増加や事業部門の収入増に伴う原価増などにより減益。

(単位：百万円)

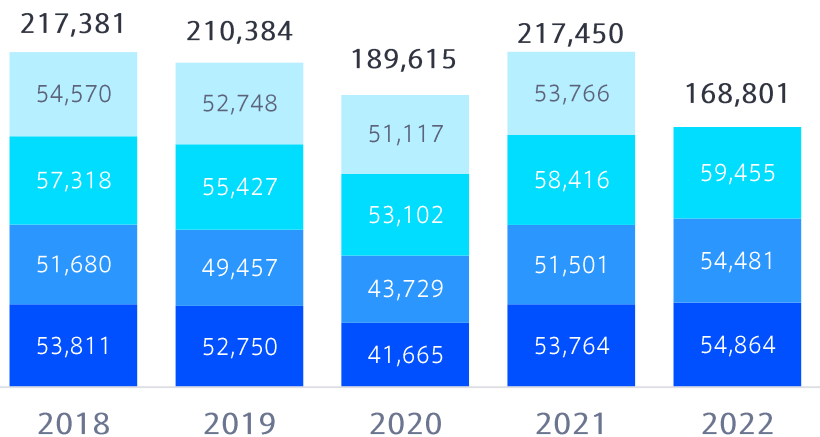
TBSテレビ	2021年度 3Q(4-12月)	2022年度 3Q(4-12月)	前年差	増減率
売上高	163,683	168,801	+5,117	+3.1%
営業利益	13,908	13,402	△506	△3.6%
経常利益	15,820	15,627	△193	△1.2%
四半期純利益	11,071	10,598	△472	△4.3%

営業費用等

■ 番組原価	+	329	
■ 代理店手数料	△	146	(当期 21,951)
■ ネットワーク費	△	99	
■ 事業部門営業費用	+	4,193	
■ 特別利益 (投資有価証券売却益)			533
■ 特別損失 (投資有価証券評価損)			22

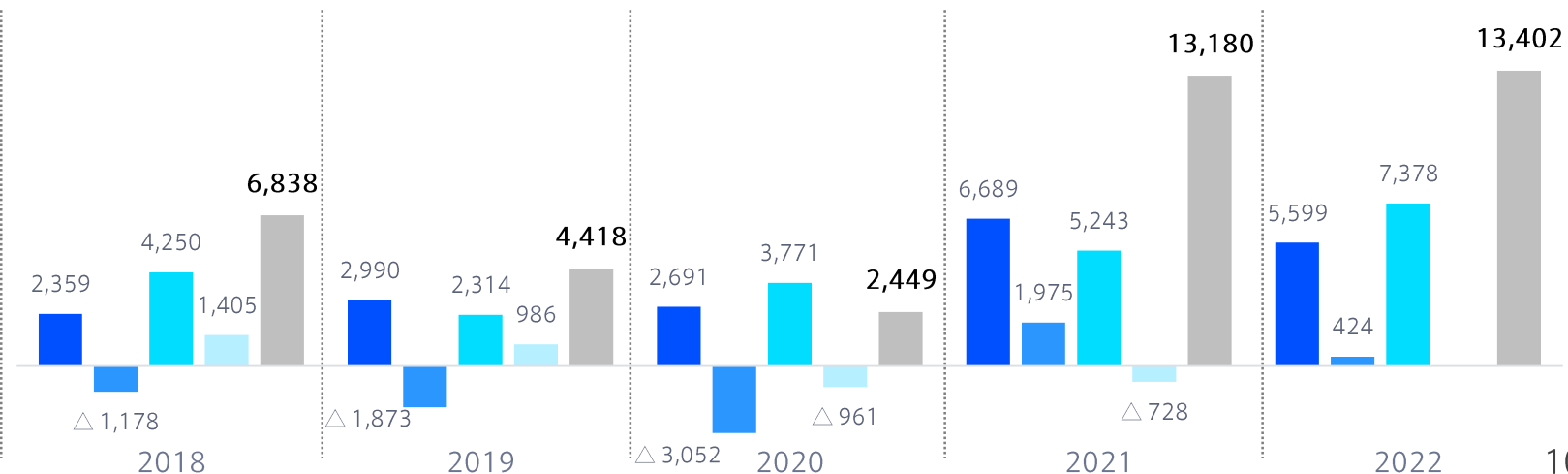
売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



営業利益

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



(単位：百万円)

	2022年度 3Q (4-12月)	前年差
テレビ事業	144,737	△369
－ タイム	60,473	△2,309
－ スポット	62,518	+55
－ 配信広告 ※1	3,982	+644
－ その他	17,763	+1,239
事業 ※2	21,799	+5,484
不動産	2,265	+2
収入合計	168,801	+5,117

※1. 前第3四半期および前事業年度においてコンテンツ区分で開示していた収入のうち、当第3四半期においては配信広告を別掲したうえで、配信広告以外をその他区分で集計。

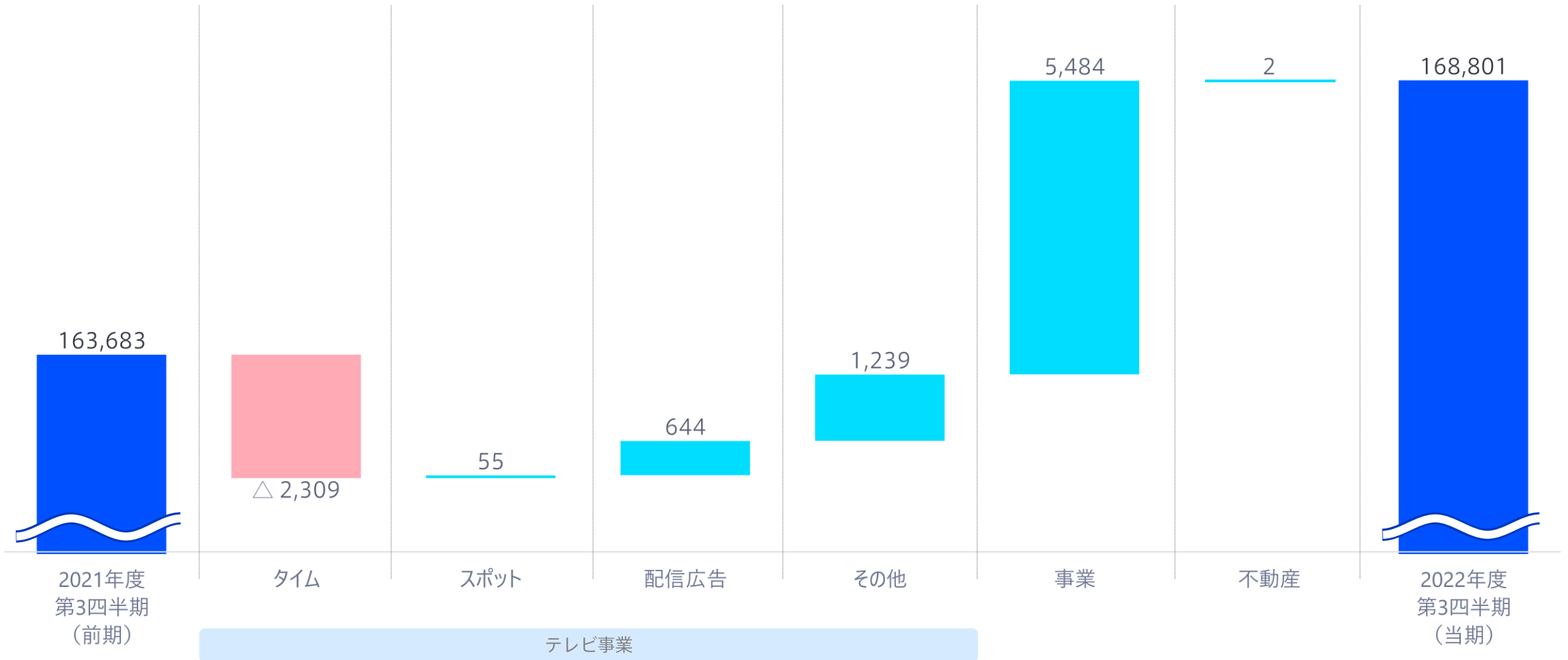
※2. 2021年7月より事業部門にあった海外番販事業の一部をテレビ事業の「その他」に移管。



▶ テレビ部門では、前年の「東京オリンピック・パラリンピック」の反動でタイム収入が減収したものの、5局シェア拡大によるスポット収入の増加に加え、配信広告収入が好調に推移。事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したほか、ドラマ「君の花になる」の連動イベントにより、大幅増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



テレビ番組原価（制作費）

▶ 第3四半期は、前年度の映画制作費の反動で減少。通期は、アジア大会の延期の影響で期首予想（※）より減少。

（※）期首予想 96,435百万円

（単位：百万円）

	2021年度実績	2022年度実績	前年差
第1四半期	22,631	23,218	+587
第2四半期	23,580	23,715	+134
上期	46,211	46,933	+722
第3四半期	24,769	24,357	△412
(地上波直接費)	19,322	19,389	+67
(その他直接費及び間接費)	5,447	4,967	△479
第4四半期	25,168	—	—
通期累計	96,149	95,729	△420
(地上波直接費)	75,710	74,761	△948
(その他直接費及び間接費)	20,439	20,967	+528

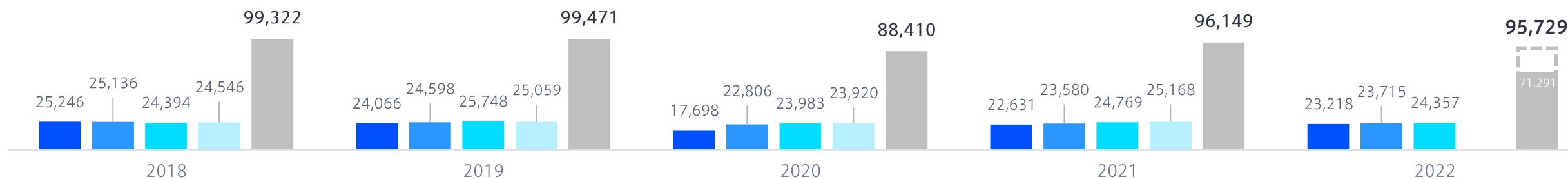
テレビ番組原価に含まれる主な費用

地上波直接費：
番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費

その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費等の配賦原価

※点線内の通期累計および内訳は、すべて見込みです。

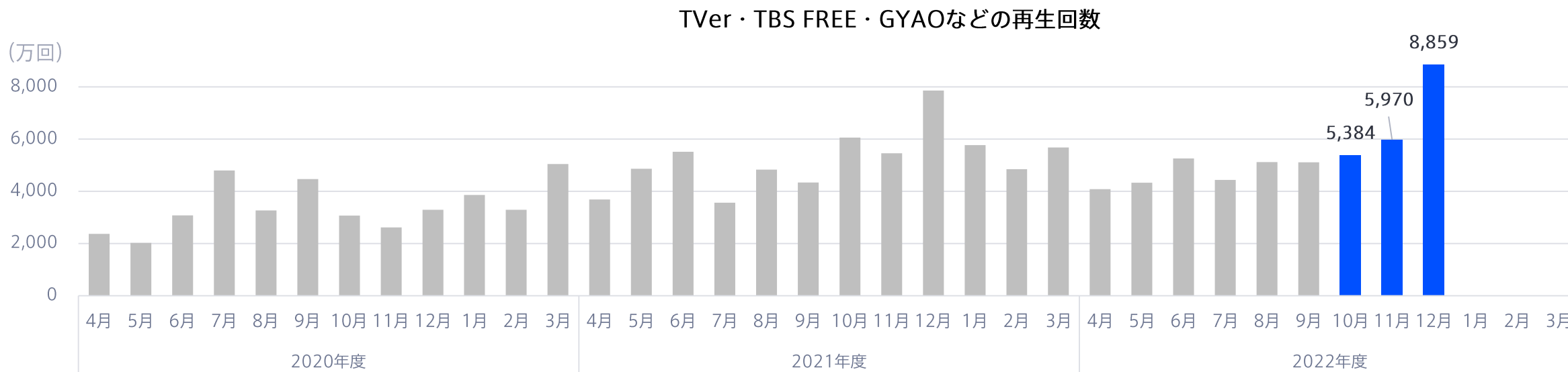
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



▶ 配信広告収入は、期中を通してセルスルー率が向上し、増収。再生回数、UB数も前年比プラスで推移。
 有料配信は、Paraviなど国内配信と海外配信（Netflix「未来日記」「君の花になる」、Disney+「マイファミリー」「アトムの子」など）により、増収。

(再生回数、ユニークブラウザ数はビデオリサーチ調べ)		2022年度 3Q (4-12月) 前年増減率	2022年度 3Q (4-12月) 収入 (前年差)
配信広告収入*		+19.3%	3,982百万円 (+644百万円)
TVer・TBS FREE・GYAO! など	再生回数	+5.2%	
	UB (ユニークブラウザ) 数	+4.8%	
有料配信収入		+26.1%	

※第1四半期決算までの「無料配信収入」から計上方法を変更し、第2四半期決算資料より「配信広告収入」を記載。



▶ 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したほか、ドラマ「君の花になる」の連動イベントにより、催事・興行は大幅増収。映画では過去作品の配信収入が好調。アニメでは映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、過去作品の配信収入も好調。事業部門全体で増収増益。

(単位：百万円)

部 門	2022年度 3Q (4-12月)	前年差	主な増減要因
事業 (催事・興行)	8,624	+4,145	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したほか、ドラマ「君の花になる」の連動イベントにより、大幅増収。
映画	1,519	+675	「99.9-刑事専門弁護士-THE MOVIE」や「糸」等の配信収入が好調のため増収。
アニメ	1,618	+695	映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、「プラチナエンド」等の配信収入が好調のため増収。
グローバルビジネス (旧：海外ビジネスセンター)	2,092	+403	2021年7月より海外番販事業の一部をテレビ部門に移管したが、フォーマット販売やロイヤリティ収入が好調のため増収。
メディア事業	6,352	△342	CS事業はアロケーションの向上などがあったものの、前年同期の水準には届かず減収。
マーチャンダイジングセンター (旧：ライセンス事業)	1,591	△92	「クロサギ」や「君の花になる」など10月ドラマの商品化が好調の一方、巣ごもり需要の反動をカバーするには至らず減収。
収入計	21,799	+5,484	
事業部門営業費用	17,010	+4,193	
部門利益	4,788	+1,291	

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			主な増減要因
	2021年度 3Q(4-12月)	2022年度 3Q(4-12月)	前年差	2021年度 3Q(4-12月)	2022年度 3Q(4-12月)	前年差	
TBSラジオ	6,442	6,291	△151	529	300	△228	イベント収入は好調だったものの、 広告収入がタイム・スポットともに 減収となり、減収減益。
BS-TBS	12,079	12,909	+829	2,273	2,254	△19	タイム収入、スポット収入の増収に加え、 配信が好調なことにより、増収。一方で 番組制作費の増加等により減益。
TBS グロウディア	20,969	20,096	△873	457	△83	△540	ショッピング部門売上、DVD販売の減少 により、減収減益。
日音	6,259	6,224	△34	701	558	△143	邦楽、洋楽収入が落ち込んだことにより、 減収減益。
TCエンタ テインメント	6,352	5,343	△1,008	602	458	△143	DVD販売の減少により、減収減益。

▶ 雑貨小売販売事業は、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などの影響で、大幅な増収。
 通信販売事業は、前年好調であった受注の落ち着きにより、減収。ビューティ&ウェルネス事業は、海外売上の不調などにより、減収。
 グループ全体では雑貨小売販売事業の影響が大きく、増収増益。

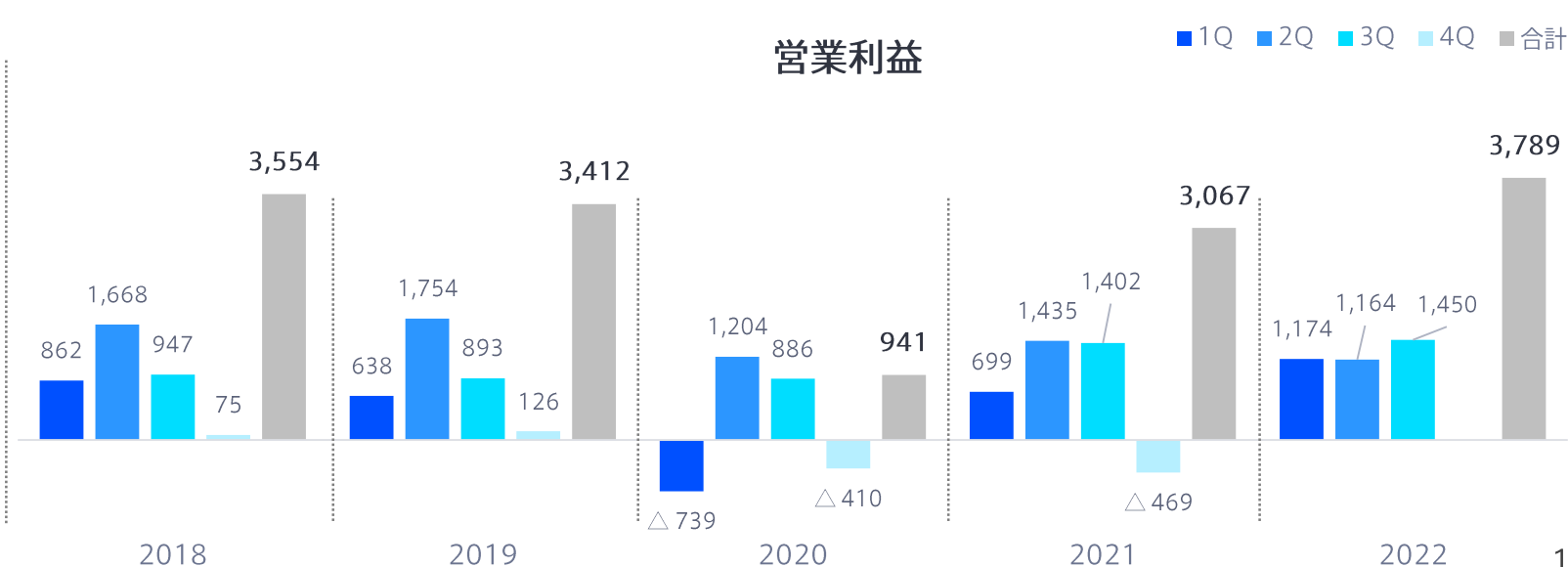
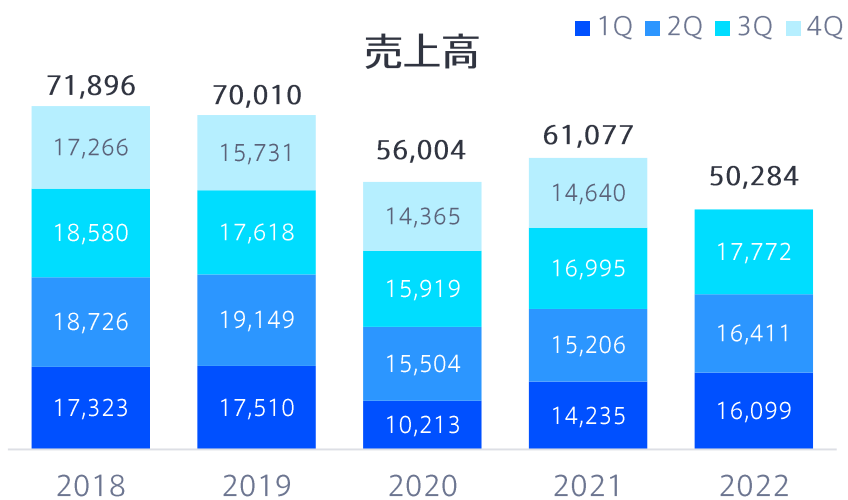
(単位：百万円)

連結	2021年度 3Q (4-12月)	2022年度 3Q (4-12月)	前年差
売上高	46,437	50,284	+3,846
営業利益	3,537	3,789	+251

(単位：百万円)

事業別	売上高(※)		
	2021年度 3Q (4-12月)	2022年度 3Q (4-12月)	前年差
雑貨小売販売事業	23,141	27,281	+4,140
通信販売事業	12,739	12,634	△105
ビューティ&ウェルネス事業	10,833	10,610	△222
本社およびその他	△276	△242	+34
計	46,437	50,284	+3,846

※事業別の売上高は管理会計上の数値



2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

2022年度 連結業績予想

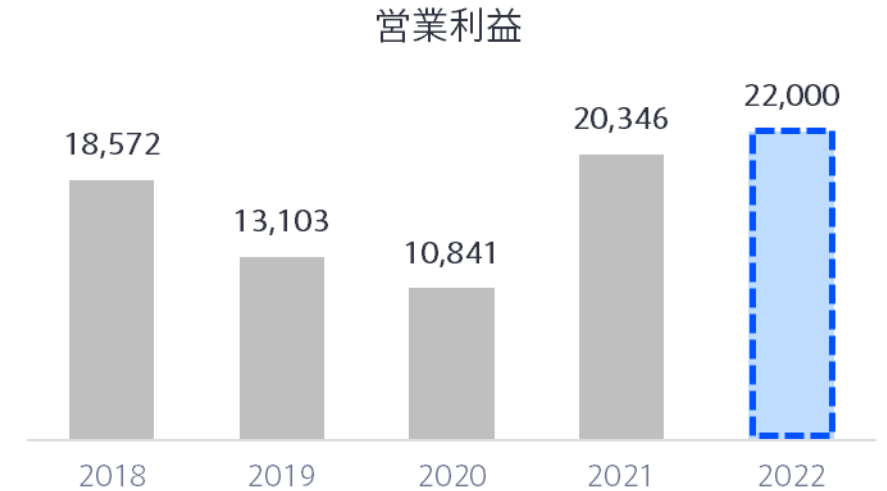
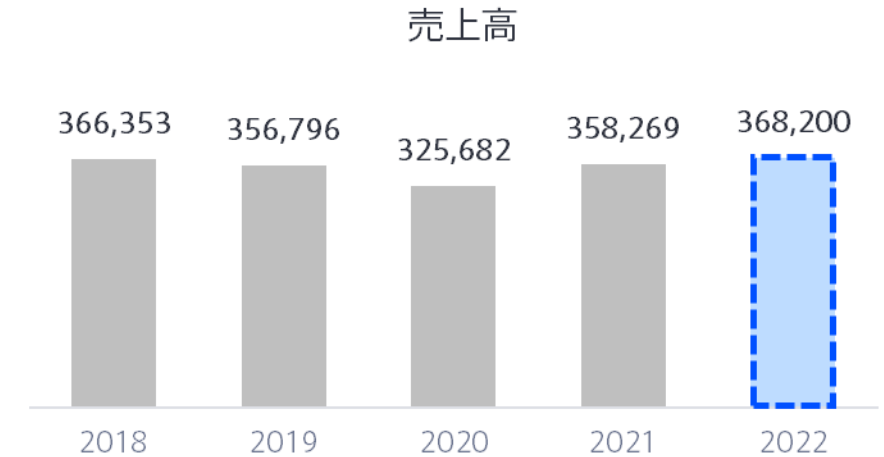
2022年度第2四半期決算発表時（11月10日）より変更なし。

(単位：百万円)

連 結	2021年度実績	2022年度予想 (11/10発表)	前年差
売 上 高	358,269	368,200	+9,930
営 業 利 益	20,346	22,000	+1,653
経 常 利 益	30,707	35,000	+4,292
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,008	20,300	△11,708

(単位：百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2021年度 実績	2022年度 予想 (11/10発表)	前年差	2021年度 実績	2022年度 予想 (11/10発表)	前年差
メディア・コンテンツ	281,414	286,000	+4,585	10,933	12,100	+1,166
ライフスタイル	61,023	66,000	+4,976	2,362	3,000	+637
不動産・その他	15,831	16,200	+368	7,062	6,900	△162
調整額	—	—	—	△11	—	+11
連 結	358,269	368,200	+9,930	20,346	22,000	+1,653

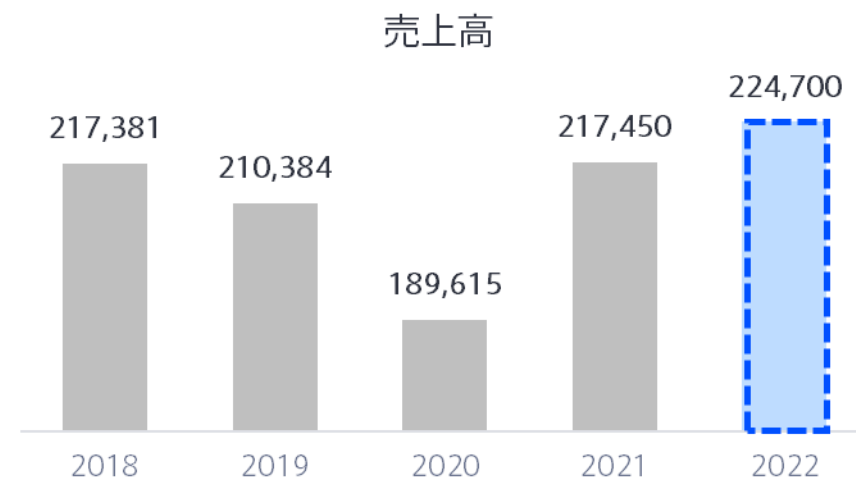


2022年度 TBSテレビ業績予想

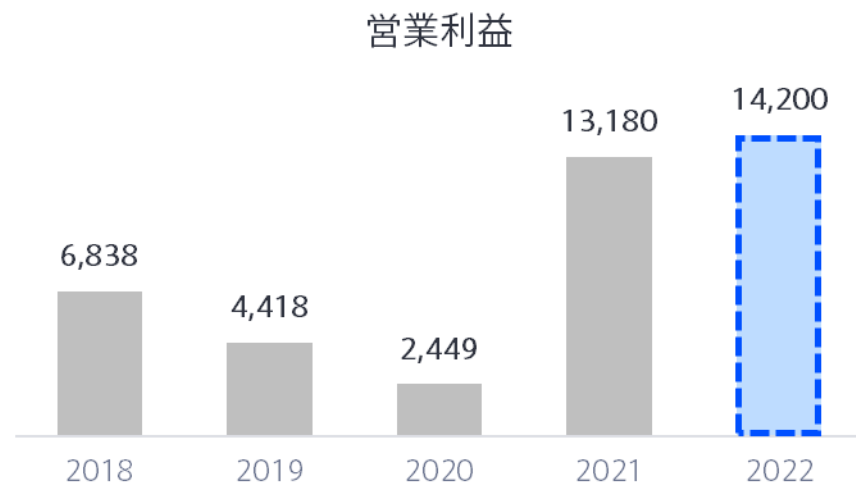
▶ 2022年度第2四半期決算発表時（11月10日）より変更なし。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2021年度実績	2022年度予想 (11/10発表)	前年差
売上高	217,450	224,700	+7,249
営業利益	13,180	14,200	+1,019
経常利益	15,328	16,800	+1,471
当期純利益	16,233	11,400	△4,833



	2022年度3Q累計実績	2022年度予想
タイム	△3.7%	△ 1.6%
スポット	+0.1%	△ 0.3%
番組原価 (百万円)	71,291	95,729



2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点戦略

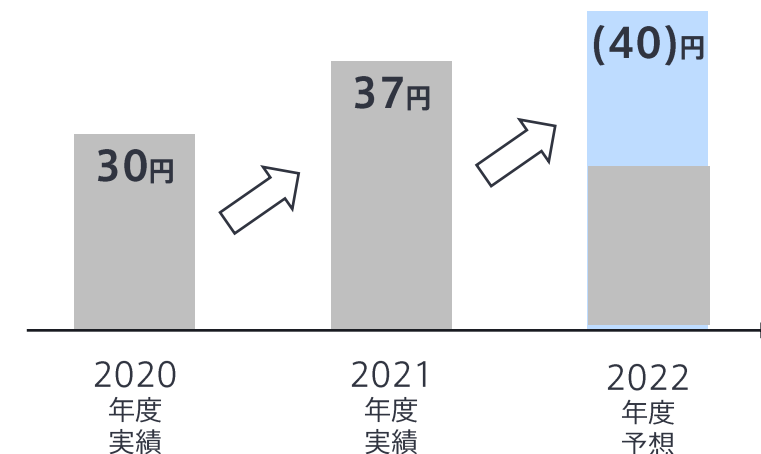
参考資料

基本方針	株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目処としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長等の際には、特別配当等により還元の充実に努める。自己株取得は、これまで通り機動的に検討する。
-------------	--

中計2023 配当方針	1株当たり30円を下限とする。ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。
------------------------	--

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★) の影響を除いた配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度 (予想)	20	(20)	(40)	(33.3)	—

(★) 中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2021年度は7円増配の37円を実施。2022年度は3円増配の40円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。配当予想は2021年度決算発表時より変更なし。

2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

	2022年度 第3四半期累計	
	収入（前年差）	前年増減率
配信広告収入	3,982 百万円 (+644百万円)	+19.3%

	2022年度 第3四半期 前年増減率
再生回数	+5.2%
ユニークブラウザ一数	+4.8%

(再生回数、ユニークブラウザ一数はビデオリサーチ調べ)

- 再生回数、UB数はプラスで推移。
- 通期で、セルスルー率が向上。

 ※2022/4/18スタート	2022年度 第3四半期 前年増減率
ニュースのデジタル配信収入 <small>※TBS・JNN NEWS DIG合同会社の収入</small>	+70.7%
パートナーPFの配信PV・再生数	+23.0%

*パートナーPF

Yahoo!ニュース、YouTube、Twitter、TikTok、SmartNews、グノシー、ニュースパス、au サービスToday、LINE NEWS、NewsDigest、ニューススイート、@nifty、BIGLOBE、Excite、UQライフ、ノアドット、MSNニュース、NewsPicks、dメニュー、goo、等(順不同)

- 「TBS NEWS DIG Powered by JNN」(JNN系列28局の統合ニュースサイト)
⇒2022年9月に月間1.6億PV(※)を突破!
⇒2022年10月に天気・防災アプリを大幅アップデート
放送業界初となる緊急地震速報(予報)を実装(iOS版から先行リリース中)
- 外部販売、広告収益ともに好調

※: Google Analytics 調べ/newsdigドメイン合計・外部PV含まず

TBS系リアルタイム配信

見たい場所で、見たい番組を、いつでも見られる
新しいユーザー体験で、最高の“時”をお届けします!

2022年4月11日(月)より
プライムタイムの番組を中心にTVerにて配信中
セールスに関しては、2023年3月末までトライアル期間が継続。
実際のセールスは、2023年4月から開始。



●地上波連続ドラマとの連動企画を今後も企画中。

連動事例：火曜ドラマ「君の花になる」



オーディションから
ドラマ放送までの1年間に密着

思い出のシーンやウラ話などの
未公開映像



イベント連動



リアル・イベントを
独占LIVE配信

TBS初 地上波放送に先駆けて1週間前に先行配信
深夜ドラマ枠「ドラマストリーム」



第1弾「村井の恋」



第2弾「理想ノカレシ」



第3弾「パパとムスメの7日間」



第4弾「階段下のゴッホ」



第5弾
「私のシてくれないフェロモン彼氏」



第6弾「ブラザー・トラップ」

Netflix

「100万回言えばよかった」



●過去作品も続々と世界配信開始

	タイトル	国内配信開始	海外配信開始
1	カルテット	配信済	配信済
2	ごめんね青春	配信済	23年2月予定
3	逃げるは恥だが役に立つ+スペシャル	配信済	23年2月予定
4	M I U 4 0 4	配信済	配信済
5	池袋ウエストゲートパーク+スペシャル	配信済	23年3月予定
6	最愛	配信済	23年2月予定
7	タイガー&ドラゴン+スペシャル	配信済	23年3月予定
8	俺の家の話	配信済	23年2月予定
9	天国と地獄～サイコな2人～	23年3月予定	23年4月予定
10	インビジブル	23年4月予定	23年4月予定

※配信日程は変更可能性あり

●Netflixシリーズ「離婚しようよ」も、 2023年に世界配信予定

新作の連続ドラマがNetflixで配信されるのは、「日本沈没—希望のひと—」、「君の花になる」に続き、3作目。

Amazon Prime Video

Amazon Original 『風雲！たけし城』

2023年4月下旬より順次世界配信

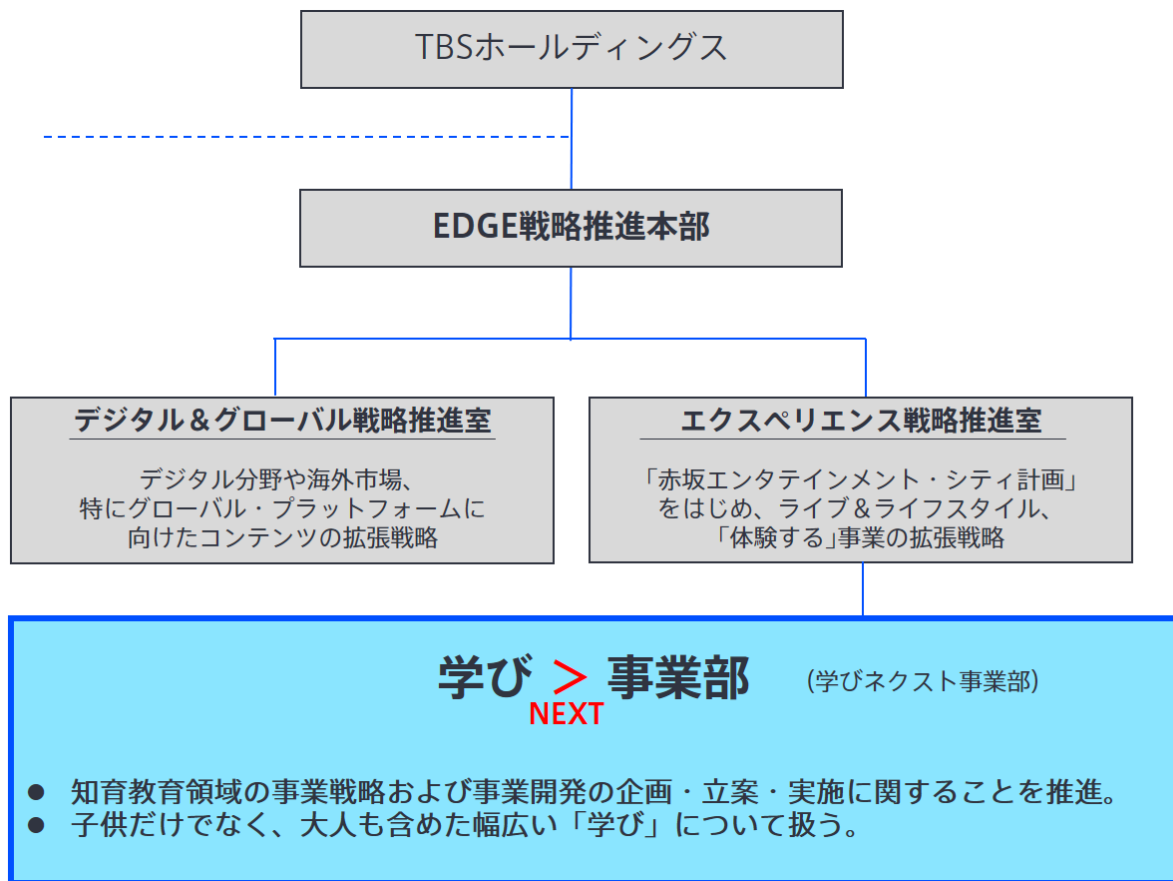


日韓合同大型アイドルバンドオーディション番組
「THE IDOL BAND : BOY'S BATTLE」 (通称: BBB)



デビューに向け、
番組放送中





- 「学び」をEDGE戦略の中の大きな柱と位置づけ、専門部署を設立。
- 「次世代に向けて学ぶことに関しては何でもあり」の精神で、対象を子供だけでなく大人にも広げ、ビジネスを展開していく。

(株)Amazing Sports Lab Japan に追加出資 関連会社化を発表



(右) 濱田満 代表取締役社長
Amazing Sports Lab Japan

- 日本においてFCバルセロナのサッカースクール事業や小学生のサッカー国際大会を運営し、日本代表選手も輩出した(株)Amazing Sports Lab Japanを関連会社化。
- TBSグループのスポーツ教育事業の基盤とする。
- サッカーだけでなくスポーツ分野の教育事業を展開・推進し、世界で活躍する子供の育成と支援を行う。

【株式会社 Amazing Sports Lab Japan 会社概要】

設立：2004年9月
代表者：代表取締役社長 濱田満
所在地：東京都千代田区三番町1-13 ワールドワイドセンター2階
会社HP：<https://aslj.net/>

●今後の主なラインナップ

2023/2/9 現在

	期間	タイトル	備考
映画	2023/2/24公開	「日の丸 寺山修司40年目の挑発」	配給：KADOKAWA
	2023/3/17公開	「わたしの幸せな結婚」	配給：東宝
	2023/4/28公開	「劇場版 TOKYO MER ~走る緊急救命室~」	配給：東宝
	2023/9/8公開	「禁じられた遊び」	配給：東映
興行	2022/7/8 - ロングラン	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2023/3/4 - 4/12	新作歌舞伎「ファイナルファンタジーX」	IHIステージア라운드東京
	2023/3/22 - 26	Kバレエ「白鳥の湖」	Bunkamura オーチャードホール
	2023/3/30 - 4/9	「スターズ・オン・アイス2023」	東和薬品RACTABドーム、横浜アリーナ
	2023/4/9 - 30	ミュージカル「GYPSY」	東京芸術劇場プレイハウス
	2023/5/7 - 17	ミュージカル「エリザベス・アーデンVS.ヘレナ・ルビンスタイン」	日生劇場
	2023/7/5 - 23	ブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」	東急シアターオーブ
	2023/7/31 - 8/3	「ル・グラン・ガラ2023」	東京文化会館大ホール
催事	2023/3/18 - 6/11	憧憬の地 ブルターニュ モネ、ゴッガン、黒田清輝らが見た異郷	国立西洋美術館
	2023/9/20 - 12/11	イヴ・サンローラン展	国立新美術館

2021年12月にスタートし、**会員数46万人**を突破

(2023年1月末現在)

舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』
「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」などで大きく前進

PLAZASTYLE

2023年1月スタート
火曜ドラマ 「夕暮れに、手をつなぐ」
劇中使用コラボクッション発売！

主演の広瀬すずさん、永瀬廉さん (King & Prince) が
劇中で使用するクッションをPLAZAがデザイン！
PLAZAオンラインストアのほか、
TBSショッピング、TBSストアでも販売

(※2023/2/9現在、PLAZAオンラインでの販売は終了しております。)

夕暮れに、手をつなぐ



©TBS

キリンティアラ

©TBS

ヒョウクラウン

そのほか、
毎週月曜～金曜あさ8時からTBS系列で放送中
「ラヴィット！」のキャラクター
「ラッピー」のマスターライセンス権を取得。
様々な商品企画を計画中。



あなたの街にPLAZAがやってくる！

PLAZA
TENNOJI MIO
RENEWAL
OPEN
2023.3.3 FRI.

PLAZA
KOBE
HARBORLAND
umie
OPEN
2023.3.3 FRI.

PLAZA
AEONMALL
TOYOKAWA
OPEN
2023.4.4 TUE.

■PLAZAららぽーと門真店
4月OPEN予定



2022年度 第3四半期決算ハイライト

2022年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2022年 12月末	比較		2022年 3月末	2022年 12月末	比較
流動 資産	198,692	199,564	+871	流動 負債	75,592	94,114	+18,522
				固定 負債	243,037	162,126	△80,911
				負債 合計	318,629	256,240	△62,388
固定 資産	1,002,939	820,654	△182,285	純資産 合計	883,002	763,977	△119,024
				自己 資本	868,455	748,397	△120,057
				非支配 株主持分	14,547	15,579	+1,032
資産 合計	1,201,632	1,020,218	△181,413	負債 純資産 合計	1,201,632	1,020,218	△181,413

期末有利子負債残高： 250億円 (前期末比 △10億円)

※リース債務は除く

新ファミリーコア視聴率（4～49歳）

(※ [] 内は前年同期差 単位：%)

	全 日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
T B S	③1.5 [△0.2]	③3.0 [△0.4]	③2.9 [△0.4]	③1.1 [△0.1]
日本テレビ	①2.8	①5.0	①4.7	①2.2
テレビ朝日	④1.3	④2.5	④2.5	④1.0
テレビ東京	⑥0.5	⑥1.5	⑥1.3	⑥0.3
フジテレビ	②1.8	②3.1	②3.1	②1.4
N H K	⑤0.8	⑤1.6	⑤1.5	⑤0.6
PUT	9.8 [△1.5]	18.2 [△3.0]	17.3 [△2.9]	7.6 [△1.2]

(2022/4/4～2023/1/1：週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

個人全体視聴率 (ALL)

(※ [] 内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	④ 2.7 [△0.3]	④ 4.1 [△0.5]	④ 4.0 [△0.5]	④ 2.4 [△0.2]
日本テレビ	①3.6	①5.8	①5.4	①3.1
テレビ朝日	①3.6	②5.3	②5.3	②3.0
テレビ東京	⑥1.2	⑥3.2	⑥2.8	⑥0.8
フジテレビ	⑤2.5	⑤3.9	⑤3.8	⑤2.1
NHK	③3.0	②5.3	③4.6	③2.5
PUT	19.6 [△2.2]	32.3 [△3.5]	30.3 [△3.3]	16.5 [△1.9]

(2022/4/4 ~ 2023/1/1 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備 考
	2022年度	前年差	増減率	2022年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,036	△193	△2.7%	7,380	+216	+3.0%	△0.3%	タイムレギュラーセールスで減収。
5月	6,560	△166	△2.5%	7,200	△271	△3.6%	△3.9%	
6月	5,968	△351	△5.6%	6,927	△302	△4.2%	△12.7%	ウクライナ情勢や原材料費の高騰などに起因し、スポットの地区投下量低調。
7月	8,541	+644	+8.2%	6,596	+196	+3.1%	+8.1%	
8月	5,953	△2,176	△26.8%	5,669	+663	+13.3%	+8.9%	前年の東京オリンピック・パラリンピックの反動でタイムは減収、スポットは増収。
9月	6,048	+145	+2.5%	5,991	△327	△5.2%	△9.8%	
10月	6,776	+6	+0.1%	7,282	△25	△0.3%	△4.8%	
11月	6,646	△195	△2.9%	7,808	+127	+1.7%	△6.5%	
12月	6,939	△21	△0.3%	7,660	△222	△2.8%	△6.7%	
1月								
2月								
3月								
1Q	19,565	△711	△3.5%	21,508	△357	△1.6%	△5.6%	
2Q	20,544	△1,386	△6.3%	18,257	+533	+3.0%	+1.7%	
3Q	20,362	△211	△1.0%	22,752	△120	△0.5%	△6.1%	
4Q								
通期	60,473	△2,309	△3.7%	62,518	+55	+0.1%	△3.7%	

●スポット5局シェア（推計） 四半期推移

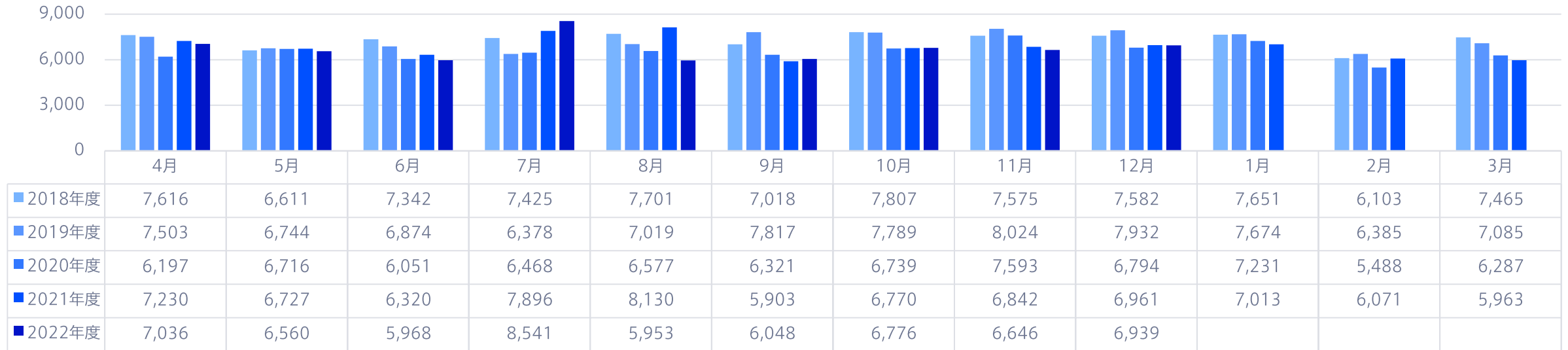
(単位：%)

2018年度 19.1% (累計)				2019年度 19.3% (累計)				2020年度 19.7% (累計)				2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.9% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
19.3	19.2	18.7	19.1	20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	

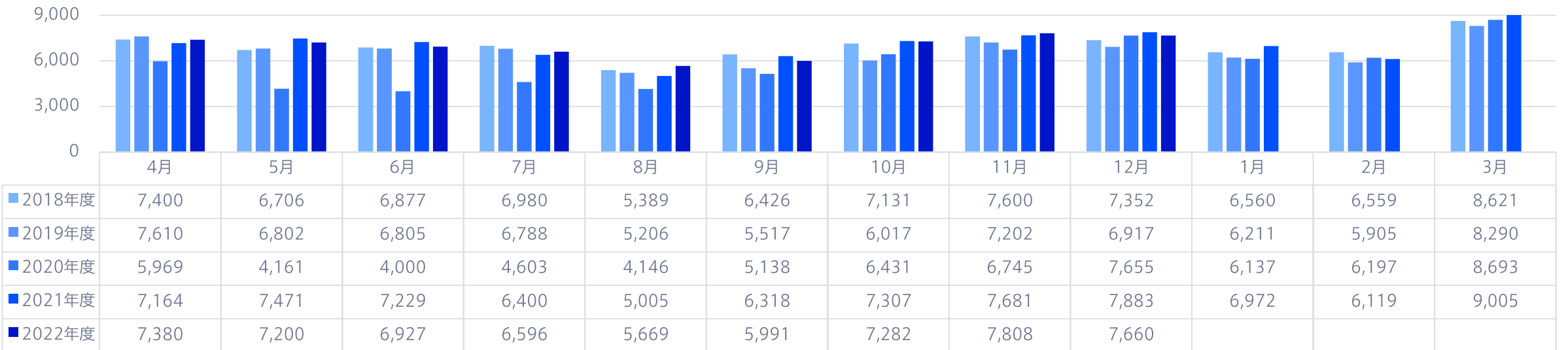
TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

(単位：百万円)

●タイム収入



●スポット収入



(単位：%)

	3Q累計 (4-12月)	増減率	シェア	前年同期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△8.8	18.0	情報・通信・放送	+47.4	19.7
2	酒・飲料	△7.7	9.9	酒・飲料	+46.8	10.7
3	外食・サービス	+41.2	9.5	食品	△4.6	8.5
4	食品	+5.3	9.0	医薬品	+3.0	7.6
5	医薬品	△4.5	7.3	化粧品・トイレットリー	+19.2	7.2
6	金融	+0.9	5.1	外食・サービス	+41.9	6.7
7	化粧品・トイレットリー	△35.0	4.7	金融	+73.5	5.0
8	交通・レジャー	+22.6	4.6	エンタテインメント・趣味	+76.5	4.5
9	精密機器・事務機器	+1.2	4.1	自動車・輸送機器	△13.6	4.0
10	不動産・建設	+10.4	4.0	精密機器・事務機器	+6.5	4.0

※ 順位は金額順

メディア・コンテンツ/不動産・その他(1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ(13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント(株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

ライフスタイル(3社)

(株) スタイルングライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

不動産・その他(5社)

赤坂熱供給(株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用(4社)

(株) リトプラ 2022年11月1日より商号変更(旧社名:(株)プレースホルダ)

(株) プレミアム・プラットフォーム・ジャパン

(株) WOWOW

碧芯珞(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.